

保護者の皆様へ

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査の市全体の結果について

袋井市では、幼小中一貫教育の仕組みを生かし、子どもたちの「考える力」を育むための授業づくりを進めています。子どもたちは学習課題と向き合うことをとおして、問いに対する様々な考えを「関係付け」ながら自分自身の納得のいく考えを見出していきます。

この調査では、子どもたちの学力だけでなく、日々の生活や学習の状況調査も行っています。それにより、規則正しい生活習慣や学習習慣と、子どもたちの学力との関係性が明らかになりました。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを支援していくことが、子どもたちの成長には欠かせません。保護者の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

本年度の調査結果と分析
について説明します。



©袋井市

I 調査の概要

- (1) 実施日 令和 7 年 4 月 17 日 (木)
- (2) 対象 小学校 6 年生 (国語 780 名・算数 781 名・理科 781 名・学習状況調査 778 名)
中学校 3 年生 (国語 705 名・数学 706 名・理科 710 名・学習状況調査 709 名)
- (3) 実施内容 国語・算数(数学)・理科・学習状況調査
- (4) 調査問題 国立教育政策研究所 HP で公開

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



学力調査は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部分を測定したものです。すべての学力を表したものではありません。

学習状況調査は、子どもたち自身の学習に対する意識や、日常生活習慣等の実態について調査したものです。

2 学力調査と学習状況調査の結果

(1) 学力調査

ア 全体の結果

教科	小学校			中学校		
	国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)	国語 (14 問)	数学 (15 問)	理科 (26 問)
袋井市	64	55	54	56	49	525
全国 (公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

※ 袋井市の結果については、整数での集計となっています。上の結果は、問題の軽重に関係なく、全問題のうちの正答した割合(平均正答率 単位：％)を示したものです。

※ 中学校理科は、タブレットを活用したテストであり、生徒ごとに出題される問題が異なります。問題の難易度から学力を予測し、基準値 500 を基に IRT スコアとして算出します。生徒は、共通問題 6 問、実施日により異なる問題 4 問、非公開の問題 16 問、合計 26 問解答します。

イ 記述式問題の無解答率

解答用紙に何も書けていない児童生徒の割合が高いと無解答率（単位：％）が高くなります。袋井市では、0％を目指しています。

(ア)国語

設問	小学校		中学校			
	2三	3三(2)	1四	2四	3四	4二
袋井市	8.1	20.8	1.8	3.7	21.6	16.7
全国 (公立)	5.0	16.2	1.6	4.0	28.1	19.1

(イ)算数・数学

設問	小学校				中学校				
	1(2)	2(4)	3(2)	4(2)	6(2)	6(3)	7(2)	8(2)	9(3)
袋井市	1.8	5.5	20.6	8.1	23.5	16.1	2.8	31.7	28.8
全国 (公立)	0.9	2.7	15.7	3.4	24.9	20.2	2.2	35.0	31.5

(ウ)理科

設問	小学校		中学校	
	1(2)	3(4)	1(2)	1(6)
袋井市	11.4	16.8	5.1	8.7
全国 (公立)	8.5	11.4	8.0	9.9

※ 中学校の問題は、全生徒に出題される共通問題 6 問における記述式問題の無解答率です。

(2) 学習状況調査

結果は、肯定的な回答をした児童生徒の割合を示したものです。

ア 肯定的な回答の割合が（全国と比べて）高かった主な項目

設問	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	80.9	+2.8	84.9	+5.7
あなたは自分がPC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理することができると思いますか	74.8	+5.5	74.5	+11.2
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	86.5	+1.6	89.5	+4.8
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	84.6	+2.1	79.1	+4.3
これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」と答える児童生徒の割合	72.4	+25.7	85.4	+32.2

イ 肯定的な回答の割合が（全国と比べて）低かった主な項目

設問	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	59.5	▲9.1	59.8	▲3.2
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※「2時間以上」と答える児童生徒の割合	23.1	▲1.8	28.6	▲2.2
解答時間は十分でしたか（国語） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と答える児童生徒の割合	60.1	▲13.8	62.8	▲5.0
解答時間は十分でしたか（算数・数学） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と答える児童生徒の割合	71.6	▲8.8	62.6	▲10.6

ウ 同一集団（R4小6→R7中3）で肯定的な回答が増加した項目

設問	令和4年度 小学6年	令和7年度 中学3年	上昇幅
自分には、よいところがあると思いますか	80.4	90.7	+10.3
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	89.4	92.8	+3.4
人が困っているときは、進んで助けていますか	91.1	94.8	+3.7
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	69.6	75.6	+6.0
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	80.2	90.8	+10.6
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	80.1	86.1	+6.0

3 分析

(1) 学力調査の結果から

小学校	国語	○文章の内容を正しく説明したり、適切に理由や原因を述べたりしている選択肢を選ぶ問題は、無解答率が低く正答率が高い。 ●<u>問題の全体像を把握しつつ、複数の資料を活用・関連付けて決められた条件を満たしながら解答する</u>問題は、無解答率が高く正答率が低い。
	算数	○小数や分数の計算をしたり、図やグラフを読み取って適切な答えを選択したりする問題は、無解答率が低く正答率が高い。 ●<u>分数の計算方法を数や言葉を使って説明したり、解答に必要な条件を考えながら求め方を式や言葉で書いたりする</u>問題は、無解答率が高く正答率が低い。
	理科	○自分の知識と実験方法や植物の図を関連付けて、適切な語句や数字を選択したり、実験結果をもとに予想しその理由を選択したりする問題は、無解答率が低く正答率が高い。 ●<u>実験結果を基に結論を導いた理由や、実験結果から見出した新たな問いを、自分の言葉で説明する</u>問題は、無解答率が高く正答率が低い。

中学校	国語	○文章や資料の目的・意図・理由・効果等を適切に説明している選択肢を選ぶ問題は、無解答率が低く正答率が高い。 ●<u>文章の内容を読み取ったり解釈したりして、複数の条件を満たしながら、自分の考えとその理由を具体的に書く</u>問題は、無解答率が高く正答率が低い。
	数学	○適切な数字を入れて説明文を完成させたり、グラフや図から分かることを選択したりする問題は、無解答率が低く正答率が高い。 ●<u>式の意味を理解し数学的な表現を用いて表現したり、予想が成り立つ理由や求め方を説明・証明</u>したりする問題は、無解答率が高く正答率が低い。
	理科	○問題の難易度が低く、科学的な知識や安全に実験を行うための技能について、適切な選択肢を選ぶ問題は、正答率が高い。 ●<u>問題の難易度が高く、情報を解釈して適切な選択肢を選ぶ問題や、予想や仮説を立証するための実験結果を選択したり書いたりする</u>問題は、正答率が低い。 ※公開問題（共通）のみ分析

(2) 正答率が高い児童生徒に見られる傾向 (学力調査と学習状況調査の結果より)

ア 家庭生活や児童生徒に関すること

- | | |
|-------------|----------------|
| ・朝食を毎日食べている | ・人の役に立つ人間になりたい |
| ・学校に行くのは楽しい | ・自分には、よいところがある |
| ・読書が好き | ・家にたくさんの本がある |

⇒家庭生活と学校生活の安定は、学力のベースになると考えられます。

⇒人の役に立ちたいという思いは、良い人間関係を築くことに役立ちます。人との関係が良好であれば、対話や議論を楽しむことができ、自分の考えを広げたり深めたりすることができます。

⇒本を手にする機会を増やし、新しい情報を得たり語彙を増やしたりすることは、「考える力」を身に付けていくための基礎になります。

イ 主に学び方に関すること

- | |
|--|
| ・分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている |
| ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている |
| ・PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理できる |
| ・PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成できる |

⇒自分で学びを考えて工夫することで、個の学びが充実します。お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことで、協働的な学びが実現します。これにより、確かな学力が育まれると考えられます。

⇒PC・タブレットを学びの道具として有効に活用する力は、「考える力」を身に付けるために必要なスキルです。

ウ 主に授業に関すること

- | |
|---|
| ・(小) 目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている |
| ・(中) 国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えている |
| ・(小) 小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしている |
| ・(中) 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができている |
| ・全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した |

⇒表現方法を工夫して書いたり、書いた内容を推敲したりすることで、自分の考えが整理されて学びが深まり、学習内容が定着すると考えられます。

⇒自分なりに工夫して取り組む力や、数式や図などの様々な情報を読み解き理解する力が、確かな学力に結び付くと考えられます。

⇒あきらめずに試行錯誤することや、課題の解決に向けて自分から取り組み、学んだことを生かしながら自分なりにまとめる経験により、知識・技能の定着に加えて、「考える力」が育まれていきます。また、課題を追究しようとする主体性も培われます。

4 今後の取組

子どもたちの思考の深まりや広がり、思考スキル、追究する姿勢といった「考える力」を育てていくために、袋井市では「『袋井型』授業づくり」に取り組んでいます。袋井市では、以下の3つの要素を大切にしながら授業計画を立て、実践しています。

- ・ 子どもが考えたくなるような、「？型の学習課題」を設定する
- ・ 自分自身の考えを深めるために、対話や議論の場を設定する
- ・ 学習課題に対し、自分自身の納得のいく考え(納得解)を書く「個のまとめ」の時間を設定する

全国学力・学習状況調査の結果から、袋井市の子どもたちには自己肯定感があり、自分の意見を大切にしつつ、他者の考えと向き合う気持ちが育っていることが分かりました。

また、子どもたちは、ICT機器を活用し、学びを実生活に結び付けることで、意欲的に学びや活動に取り組んでいることも分かりました。

今後は、日々の授業において、「疑問点を伝える」「確認し合う」「説明する」「理由を述べる」「まとめを発表する」など、他者と関わる中で、学びが広がったり深まったりする場と機会を設定します。さらに、対話や議論の場と、自分自身の納得のいく考え（納得解）を表出する「個のまとめ」の充実を、さらに図ることで、子どもたち一人ひとりが自分の思いや考えをアウトプットすることに重点を置いた授業改善を進めていきます。

家庭での過ごし方についても、ぜひ
お子さんと話し合ってみてください。



保護者様

南の丘学園袋井市立袋井南中学校長 中村 佳央

全国学力・学習状況調査結果について（お知らせ）

秋晴の候、日頃、本校の教育活動に御理解と御協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

つきましては、全国と県・市と本校の状況を比較した調査結果を御確認ください。

なお、生徒には個人票を生徒一人一人に配付します。個々の学習状況や課題を踏まえて、今後の参考にさせていただけますようお願いいたします。

本校では、生徒一人一人の学習の状況を確認し、個に応じた指導や支援を行い、授業改善に一層努めます。皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

Ⅰ 学力調査の概況（平均正答率）

	国語（14問）	数学（15問）	理科（6問）(IRTスコア)
全国	54.3	48	503
本校	57〇	51〇	540◎
静岡県	56〇	51〇	527〇
袋井市	56〇	49△	525〇

※全国の平均正答率と比較して（◎：大変高い 〇：高い △：同程度 ▲：低い）

※理科、IRTスコアは個々の受験者の学力や能力を、設問の難易度や回答パターンから算出したものです。数値が高いほど結果が良いと考えられます。

2 各教科の分析と今後の取組

教科	各教科の分析結果	今後の授業改善の視点
国語	○思考・判断・表現の領域に関する問題の正答率が高く、特に自分の考えが伝わるように表現を工夫して書く問題における正答率が高かった。 ○文章構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして書くことに関する問題の正答率が高かった。	▲語彙の意味や、語句を正しく用いる問題に対する正答率が低かった。 (知識・技能) ⇒AIドリルなどを効果的に活用することで一人一人の状況に応じて、言語に関する知識や技能の確実な定着を工夫します。
数学	○全体として正答率が高かった。特にグラフやデータ活用の正答率が高かった。 ○相対度数を求めるなど公式を利用して数値を求める問題や文字式を問題に適した形に変形して説明する問題の正答率が高かった。	▲文字式の意味を読み取り、数学的な表現を用いて説明する問題の正答率がやや低かった。(思考・判断・表現) ⇒論理的な思考力や表現力を高めるため、他者の考えを式から読み取り、その内容を数学的な表現を用いて説明する学習を工夫します。
理科	○全体として全国平均と比較して、正答率が非常に高かった。 ○身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定する問題の正答率が高かった。(1)(2))	▲【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題の正答率が低かった(全国平均よりは高かった)。(2)(1)) ⇒自分たちで実験計画を立案したり、実験結果から生じた新たな疑問を解決するための追実験を行ったりするなど、より探究的な授業展開を工夫します。

3 学習状況調査の状況（肯定評価の合計 当てはまる＋やや当てはまるなど）

全国平均と比べて肯定率が高かった主な項目	本校	全国比
朝食を毎日食べていますか	84.7%	+10.9%
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	86.9%	+9.4%
あなたは自分が ICT 機器を使って情報を整理することができると思えますか	82.5%	+19.2%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	89.8%	+10.3%
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか。	94.9%	+10.6%
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思えますか	82.5%	+7.7%

全国平均と比べて肯定率が低かった主な項目	本校	全国比
1・2年生のときに受けた授業は、自分に合った考え方、学習時間などになっていましたか。	75.9%	-3.4%
国語の勉強は得意ですか	49.6%	-1.8%
国語の授業の内容はよく分かりますか	60.3%	-16.7%
理科の勉強は好きですか	53.3%	-10.5%
理科の授業の内容はよく分かりますか	65.0%	-6.4%

4 学力・学習状況調査の全体考察と今後の取組

教科の学力については、国と比較して、国語・数学・理科のどの教科において、平均正答率が高いという、例年と同様の結果になりました。

本学園が幼児教育・小学校から継続して、幼児・児童・生徒一人一人の主体性を大切に、学習意欲を高めてきた成果だと考えます。また、学力との相関関係が見られる基本的な生活習慣等についても良好な状況が見られ、学習の基盤となる各家庭や地域の温かなサポートが生徒の力を支えてくださっていると考えます。

学習状況については、ICT の活用や探究的な学習の実感が高いこと、話し合いを通じて考えを深めることや生徒一人一人が自分に合った学習方法を見出だそうとする習慣が身に付いてきていることが分かりました。また、学習内容の定着度に比べて、生徒の自己評価として学習につまづきを感じている生徒が多くいることや、教科学習の本質的な楽しさを感じる生徒も少ないことが分かりました。

今年度、本学園では「生徒主体の学校」をキーワードに、生徒たちが他者と関わりながら、自ら選択・決定したりする機会を多く設定して「自分事として学びに参加する力」を伸ばそうと取り組み、数値にも成果が見られています。

授業においては、学んだ内容を生徒一人一人がそれぞれのまとめを行う機会を大切に、次の学習や生活の中に学習が生かせるように工夫していきます。

本校生徒は、正答率が高い割には「得意」や「内容がよく分かる」と回答しない傾向にあります。引き続き、教職員は、今後も様々な場面を通じて、「4つの承認（存在・意欲・行動・成果）」を意識して、生徒一人一人の挑戦を積極的にサポートしていきます。

各家庭におかれましても、学力や学習状況を親子で確かめ、今後の授業や家庭学習への取組の改善、お子様のよさや生活習慣上の課題点、将来の夢やキャリアデザイン等について、話し合ってくださいようお願いいたします。